

2022
JCL CHAMPION
Utsunomiya Blitzen
Rei Onoda



UTSUNOMIYA
Blitzen
TIMES

December.2022
Vol.78



04.16 Moka-Haga 1st



08.06 AUTO POLIS 2nd



08.07 AUTO POLIS 1st



09.25 Sukumo 2nd



10.23 Nasushiobara 2nd



10.29 Nagato 2nd



JCL年間チャンピオン 小野寺が高級腕時計を手に

300万円相当の腕時計が小野寺へ

JCLの年間リーダー「ジャージ」の表彰式「2022 JCL AWARDS」が、去る12月11日、丸ビルホールにて開催された。

4賞ジャージの内、個人総合優勝のイエロージャージ、スプリント賞のブルージャージの2枚を獲得した小野寺玲は、三菱地所株式会社執行役常務大野郁夫様より花束、一般応募のファンからトロフィーをそれぞれ受け取った。またイエロージャージの小野寺のみ、スイス高級機械式腕時計CVSTOS(クストス)の2022イエロージャージチャンピオンウォッチ(オリジナル330万円相当)が贈呈され、小野寺は「こんなにも重厚感があり、素晴らしい腕時計をいただいて、手が変な震え方をしていますが(苦笑)、素直にとっても嬉しいですよ」とコメント。実は小野寺は、普段は「チーフカシオ」と呼ばれるお手頃な腕時計しかつけていたことがなく、自身

が成し遂げた重みを、この特別な腕時計で感じるところとなった。

オールラウンダーへの成長の兆し

個人総合優勝のポイント争いは、小野寺が1343Pに対し、2位が増田成幸で987P。実質、チーム内2人の一騎打ちであったが、「増田選手とのイエロージャージの争いについては、自分自身はシーズン途中からブルージャージをキープすることを目標にし、増田選手がイエロージャージを守り続けてくれたらチームとして2枚獲得できると思って臨んでいました。ただ、大分いい道のクリテリウムでイエロージャージを奪還し、更に後半戦で増田選手が故障により離脱したことで、こうなったら自分が2枚獲得するしかないという気持ちに切り替えて走っていたので、争いというよりは、後半は責任感の方が大きかった」と話す。

スプリント賞は小野寺151Pに対し、2位が孫崎大樹選手(スパークルおおい)の112P。今季小野寺はJCLポイント対象レースにおいて、1位2回、2位5回の成績を残し、スプリント賞争いも不安視することないまま1年を過ごせたといえよう。ただ、チーム総合の最終成績は3位と2連覇ならず。こちらは総合力を上げていく来季の布陣が、奪還してくれることを期待したい。

年間総合とスプリント賞を獲得した小野寺は、スプリンターからオールラウンダーへと成長を遂げた。それは小野寺自身も感じているようで、「今シーズンは、ロードレースで勝つという目標を立ててトレーニングしてきて、それがようやく結果として残せたシーズンでもあった。チームメイトやレース環境などに育てられて成長を感じることができました。チームメイトやスタッフ、支えてくださった関係者、スポンサーの皆様、本当にありがとうございます」と感謝の意を表し、「来季は、UCIのロードレースでの勝利を狙っています」と決意を新たにしました。



2023 新体制発表! 5名の新加入、新監督 初の外国人選手…Neo 宇都宮ブリッツェン誕生!

**沢田の加入で
五輪のMTBも視野に**

12月8日宇都宮市役所に於て、来季新体制発表の記者会見がおこなわれた。先のジャパンカップですでに発表済みの新監督・西村大輝の就任、チーム初の外国人選手フォン・チュンカイ加入に加え、新キャプテンとして那須ブラーゼンより谷順成、プリチストンサイクリングチームより沢田時、チーム右京より本多晴飛も、宇都宮ブリッツェンの赤いジャージに袖を通すこととなった。また、現役競輪選手ながら、栃木県所属の坂井洋が合流。主にバンクリーグでの活躍が期待される。

特筆すべきは、沢田の存在だろう。これまで小坂光1名だったシクロクロスチームが、沢田も加わり2名体制に。二人とも2度シクロクロス全日本チャンピオンになった経験の持ち主だ。また沢田は昨年のMTB全日本チャンピオンでもあり、来年開催されるパリ五輪の出場も目指す。さらにいずれはロードレースでも日本一になりたいと言う。

チームスローガンは「ONE OF A KIND」、日本語で「唯一無二」。来季は、ロード、シクロクロス、MTB、バンクリーグすべてで日本一となる、唯一無二のチーム作りに取り組んでいく。

増田と清水は国際チームへ移籍

在籍11年の増田成幸と、9年間指揮をとった監督の清水裕輔は、JCSが新規で立ち上げる国際チーム「JCLTEAM UKYO」へ移籍。海外レースを中心に戦い、いずれは日本チームとしてツール・ド・フランス出場を目指す。



谷 順成 TANI Junsei

ROAD RACE

1994.8.4 (28歳) 171 cm / 68 kg
出身：岐阜県岐阜市
2017-2019 ウィクトワール広島
2020-2022 那須ブラーゼン
2022 ツール・ド・北海道 総合4位
2021 ツアー・オブ・ジャパン 総合9位



FENG Chun Kai フォン・チュンカイ

ROAD RACE

1988.11.2 (34歳) 170 cm / 68 kg
出身：台湾苗栗縣
2015-2016 ランプレ-メリダ
2017-2022 バーレーン-メリダ
2022 ツール・ド・台湾 総合6位
2019 個人TT ナショナルチャンピオン



沢田 時 SAWADA Toki

MTB/CYCLO CROSS/ROAD RACE

1994.1.12 (28歳) 174 cm / 62 kg
出身：滋賀県野洲市
2012-2022 プリチストン
2022 ツール・ド・おきなわ 8位
MTB (XCC) 全日本チャンピオン
シクロクロス全日本チャンピオン2回



坂井 洋 SAKAI Yo

TRACK/BANK LEAGUE

1994.10.25 (28歳) 171 cm / 75 kg
出身：栃木県宇都宮市
日本競輪学校第115期 S級1班
2022 朝日新聞社杯競輪祭 (G1) 優勝
2021 酒水杯争奪戦 (G3) 優勝
全日本選抜メモリアル、報知杯 優勝



本多 晴飛 HONDA Haruhi

ROAD RACE

2000.4.2 (22歳) 173 cm
出身：兵庫県明石市
2021 VC 福岡
2022 チーム右京相模原
2021 西日本チャレンジャーズサイクロロードU23優勝
2022 JCLU23 賞ランキング2位



阿部 嵩之 ABE Takayuki

ROAD RACE

1986.6.12 (36歳) 177 cm / 70 kg
出身：北海道古宇郡
2009-2012 シマノレーシング
2013 チーム UKYO
2014- 宇都宮ブリッツェン



小坂 光 KOSAKA Hikaru

CYCLO CROSS/ROAD RACE

1988.10.21 (34歳) 172 cm / 62 kg
出身：長野県佐久市
2009-2011 宇都宮ブリッツェン
2013-2016 那須ブラーゼン
2019- 宇都宮ブリッツェン



堀 孝明 HORI Takaaki

ROAD RACE

1992.7.1 (30歳) 175 cm / 56 kg
出身：栃木県宇都宮市
2012-2016 宇都宮ブリッツェン
2017-2018 プリチストン
2019- 宇都宮ブリッツェン



小野寺 玲 ONODERA Rei

ROAD RACE

1995.9.3 (27歳) 176 cm / 64 kg
出身：栃木県鹿沼市
2014-2015 那須ブラーゼン
2016- 宇都宮ブリッツェン



中村 魁斗 NAKAMURA Kaito

ROAD RACE

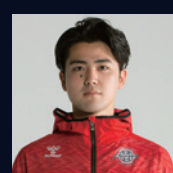
1997.1.20 (25歳) 167.5 cm / 57 kg
出身：栃木県日光市
2019 那須ブラーゼン
2020- 宇都宮ブリッツェン



西村 大輝 NISHIMURA Hiroki

監督

1994.10.20 (28歳) 172 cm / 59 kg
出身：岐阜県
2013-2017 シマノレーシング
2018-2019 NIPPO・ウィーニファンティニ
2020-2022 宇都宮ブリッツェン



荻田 晴 OGITA Sei

メカニック

2002.9.22 (20歳) 180 cm / 70 kg
出身：東京都
2022 AVENIR CYCLING YAMANASHI

2022 Season End Party JCL 個人総合優勝祝賀会

12月3日(土)、Season End Party / JCL個人総合優勝祝賀会が、ウイラ・デ・マリアージにて開催されました。コロナ禍における目黒続きの日々の末、3年ぶりに食事付きの開催ということもあり、会場は多くのにぎわいを見せていました。

待ちに待った選手入場。最後に増田成幸選手が登場すると、その場の空気は一気にヒートアップ/自らの脚で舞台上立ち、明るい表情を向けている姿は、多くの方々から希望と感動を与えてくれました。その後、廣瀬副社長によるユーモアに溢れた表彰式も行われ、そのおとけた賞の内容に会場は笑いの渦に巻き込まれました。歓談タイムでは、選手たちは今シーズンを支えてくださった方々お一人お一人と挨拶を交わし、今シーズンをともに戦ったメンバーで、感謝の気持ちを届けることができました。



今シーズンで5名の選手が退団するということで、寂しい気持ちもありますが、この2022年の戦いを心を合わせて立ち向かってきたその勇姿の数々は、応援してくださった方々の胸に、強く焼き付いたのではないのでしょうか。

笑いあり、涙ありの一年間。こうしてまた二つ、宇都宮ブリッツェンの歴史が刻まれました。2023年のチームローガンは、「ONE OF A KIND」。唯一無二の輝きを求め、熱いレースを繰り返していきます。来シーズンも引き続き応援よろしくお願いします！



私たちは宇都宮ブリッツェンを応援しています。

Thank you for your support